

むさしの緑・環境の情報誌

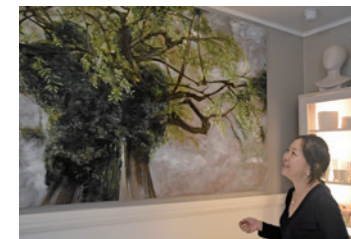
みちまちみどり

特集 ムーバスに乗って秋めぐり

2017年
11月号
Vol.29

Michi Machi Midori

ひとみどり



店に飾られた絵は、思い出のロビニエをフランスの女流画家CLAIRE BASLER(クレール・バスレー)に描いてもらった作品。

自然な姿で飾られた花や木の実に、
人々が集う。

おはなし◎柳田かよ子さん(ROBINIER 花のギャラリー)

造園会社を営む父親に連れられ、大きな屋敷の樹木の手入れを眺めて育った柳田かよ子さん。花の勉強が教室になり、軌道に乗せた。その後に介護などの時間もあったが、再び自分の人生を生きようと決心、花や草木のアレンジメントをあつかう「ロビニエ」になった。店の名前は、二人三脚で切り盛りする娘の雅世さんと過ごしたパリのアパートマンの、向かいの公園にあった樹齢400年の大木から。

現在の場所に移った2015年の暮れ、かよさんは大動脈解離で倒れたが、今度は常連客たちが店主の不在を支えてくれた。花を通じた地域のつながりに、小さなコミュニティが生まれた。



ROBINIER 花のギャラリー
武蔵野市吉祥寺本町4-7-1(中道通り)
0422-27-5638
11:00~19:00
木曜日定休 日曜日不定休

むさしの緑・環境の情報誌

みちまちみどり Vol.29

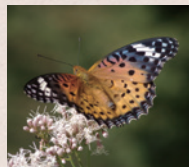
発行 武蔵野市
制作 一般社団法人グリーンボード

●商用・非商用を問わず、無断転載・複写・転用を禁じます。

表紙の写真 ● 吉祥寺西公園の秋の空



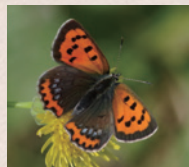
地面に降りて陽光に体を温める越冬中のムラサキツバメ。左のオスの翅表は地味だが、右のメスでは紫色が鮮烈だ。



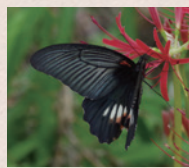
斜めの白線が目を引くツマグロヒョウモン。



南への渡りの途中で休むアサギマダラ。



秋のベニシジミ。次の世代が幼虫で越冬。

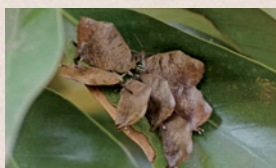


ヒガンバナに止まるメスのナガサキアゲハ。



ヒガンバナの蜜を吸うモンキアゲハ。

翅を閉じていると、翅裏の色目からは雌雄の見分けはつかない。葉の表に身を寄せ合い、集団で寒さをしのいでいるが、気候の穏やかな日にはここから飛びたって、小春日和を楽しむ。



は馴染みの蝶になっていきますね。ただ、冬を越えて産卵する個体は少ないんです。成虫越冬は環境が厳しいのもあるんですが、寒くて動けず、同

じ葉の裏にずっといるわけでは、鳥に食べられてしまうこともありますね。

11月の武蔵野市内だと、よく見かけるのはツマグロヒョウモン。東京にはほとんどいなかったのが、家庭でパンジーなどの園芸種のスミレを植えるようになって増えまし。園芸品種で蝶は飼えないといわれていたのは、実は薬剤散布の影響で幼虫が死ぬからだだったんですが、最近は少なくなっただけです。

それよりもうれしいのは、ムラサキツバメが日向で、翅を広げて温まっているところを見つけたとき、かなあ。ムラサキツバメは、日当たりのいいマテバシイを見つけて、ムラサキツバメやムラサキシジミを探してみてください。(談)

ラサキシジミもいますけど、ムラサキツバメにある尾状突起が、ムラサキシジミにはないんです。



小春日和は、秋の蝶を追って。

——石川勇夫さん（武蔵野市境）

——季語の「秋の蝶」は、春の蝶や夏の蝶に比べ、弱く、はかないものと表現されることが多い。しかし、実際は寒い季節でも、うららかな日には静かに群れ飛び、地面に降りて翅を広げる蝶たちが、散策に彩りを添えてくれる。そんな秋の楽しみを、長年この地で蝶を追ってきた石川勇夫さんにうかがった。

* * *

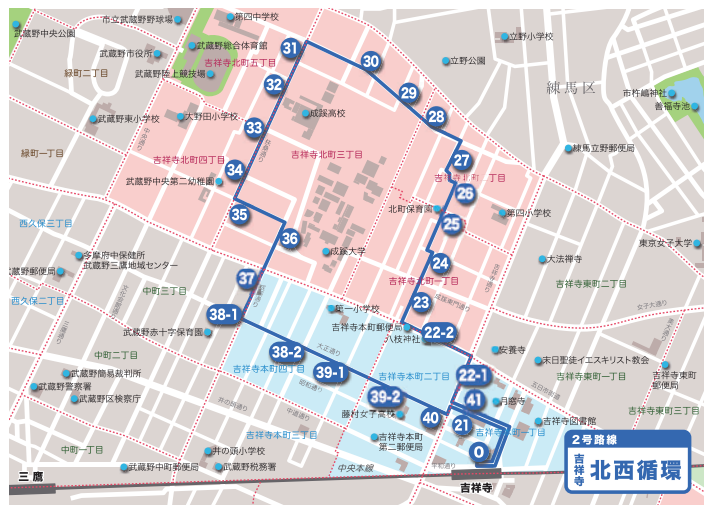
寒い季節には、生きて冬を過ごす蝶と、姿を変えて冬を



越す蝶と両方いるんです。秋の蝶で代表的なのはヒガンバナに集まる蝶で、黒っぽいアゲハが多いんですが、どれも生きたまま冬を越せない。ところが、同じ秋の蝶でもタテハチョウの種類は元氣一杯で、霜が降りるころにはどこかに自分の住みかを見つけて、じっと春を待つんです。成虫越冬、ですね。空き家の中とか、木の皮がめくれた内側とか、崖の石の裏とか。それがシジミチョウなら、葉つ

ぱの表とか。タテハチョウは、止まっている時たいてい翅を閉じていますが、越冬では横になっていて、それが暖かい日には、飛び出してくるんです。もつともその間は地面に降りて吸水するだけで、栄養が取れないので、春には胴が細くなっていますけどね。

秋のムラサキツバメは10月ごろに発生して、年明けの4月ごろまで活動し、マテバシイに卵を産んで寿命が尽きますが、年間に3回ほど生まれませんが、その最後のグループが成虫で冬を越すんです。もともとは南の蝶でしたが、4、5年前から東京でもよく見ます。これは気候変動だけでなく、産卵場所も増えたからですね。そもそも関東には少なかったマテバシイが街路樹なんかで増えて、それに卵や幼虫が付いてきたりして……今



- 41 コリス吉祥寺前
40 大正通り
39-2 西五条通り
39-1 第一小学校西
38-2 本町四丁目
38-1 成蹊通り
37 成蹊通り
36 成蹊通り
35 成蹊通り
34 成蹊通り
33 成蹊通り
32 成蹊通り
31 成蹊通り
30 成蹊通り
29 成蹊通り
28 成蹊通り
27 成蹊通り
26 成蹊通り
25 成蹊通り
24 成蹊通り
23 成蹊通り
22-2 成蹊通り
22-1 成蹊通り
21 成蹊通り
0 吉祥寺北口

2号路線 吉祥寺北西循環

吉祥寺駅の繁華街から北へ。住宅地、練馬区との市境近くの農地、ケヤキ並木が美しい成蹊学園を回り、北風の雰囲気漂う大正通りを通り、再び吉祥寺に戻るコースです。



木の花小路公園や成蹊学園のケヤキ並木はここで下車

右の車窓からは屋敷林の名残が

落ち葉で遊ぶ子どもの姿

寺社の整った緑が見られます



成蹊学園
けやき並木



北町子ども広場



北町の農地
木の花小路公園のサネカツラの実

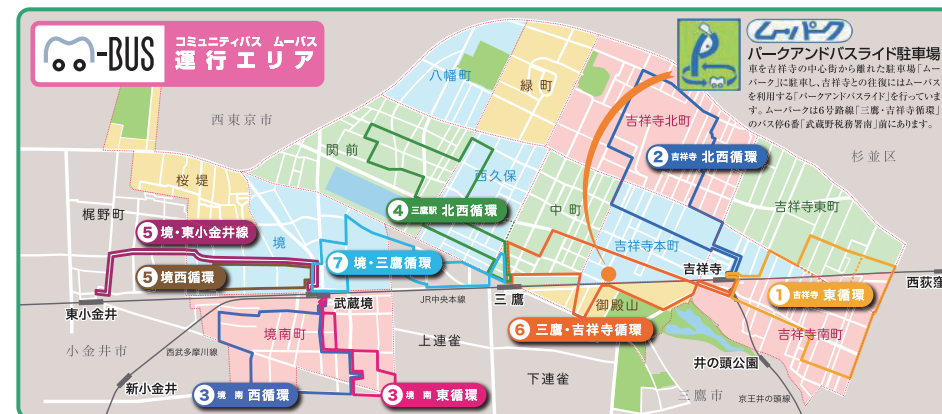


武蔵野八幡宮



ワンコインで楽しめる ムーバスに乗って秋めぐり

いまや武蔵野市の名物のひとつになった、小さく可愛らしいデザインのムーバスたち。でも、こんなに路線があるなんてご存知でしたか？ この秋、知らない道をムーバスに揺られながら、秋の色を探す休日——なんて、いかがでしょう。



1995年にスタートした、武蔵野市のムーバス。きっかけは、交通の不便を訴える市民からの手紙だったそうです。全国に先駆けた挑戦から、日本のあちこちに〈コミュニティバス〉が広がりましたが、そんな全国各地のコミュニティバスの中でもいちばん愛されていると、胸を張れる乗車率の高さ。全路線制覇、しませんか！



亜細亜大学前のイチョウ並木を通るムーバス

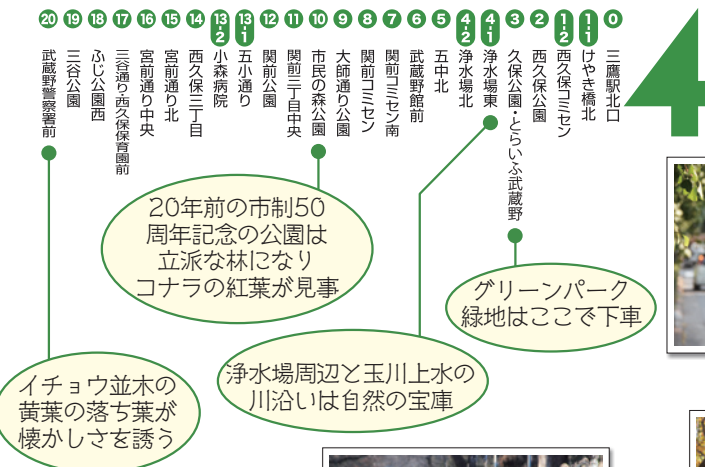


ムーバスのチョロQ



吉祥寺駅北口のムーバス乗降場所

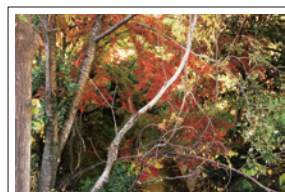
三鷹駅から北西に。歴史を感じる玉川上水、グリーンパーク緑地など帯状のみどりが見どころです。ケヤキだけでなくコナラ、クヌギ、シデなど雑木林の木が多く見られ、浄水場の周りは草紅葉も楽しめるコースです。



三鷹駅から中町新道、玉川上水のむらさき橋から井の頭公園をまわって吉祥寺駅に。その後、井の頭通りの緑に囲まれた横河グランドから三鷹駅へと、ダイナミックな緑の多いコースです。



ヒメシヤラ



玉川上水



吉祥寺西公園



映画の舞台にもなった
吉祥寺西公園(表紙写真)は
このあたりで下車

地下道を潜り抜ける
と珍しい草屋根の家
が左手に見えます

A bronze statue of a seated figure, possibly a woman, in a park setting with trees and a building in the background. The statue is positioned on a stone pedestal, and the background shows a paved path, trees with yellowing leaves, and a multi-story building.

横河グラウンド



はじめて挑戦！ 簡単！

ポリ袋でできる 落ち葉堆肥の作り方



◆用意するもの

落ち葉
ポリ袋45ℓ 2枚
(持ち手のあるものでもOK)
土(地表の土は微生物が多く発酵を早める)
米ぬか 5kg程度(お米屋さんで手に入ります)
重石用のブロック等
上に載せる板
雨よけ用のビニールシート

◆入れ方

落ち葉を20cm入れて上から足で踏み固める。
その上に米ぬかをふりかけて土を5cmくらい敷き詰める。
これを繰り返し、ミルフィーユ状にする。
袋の口が縛れる程度までにし、水を湿らせる程度にかける。
ポリ袋の口を縛り、板を置き重石を置く。
直射日光を避け、雨が入らないようにビニールシートをかける。

◆堆肥になるまでの作業

袋に詰めてから2カ月目くらいに袋を開けて、空気を入れ、袋全体をかき混ぜる。その後20日に1回位かき混ぜて様子を見る。水分が多い場合は表土を足して調節する。

◆でき上がりのサイン

6カ月程度過ぎ、落ち葉が細くなり土色になってきたらでき上がり。完成したら、ポリ袋を入れ替えて保存。なるべく早く堆肥として使う。

◆堆肥を使うときの注意

完熟していない堆肥を使うと植物を痛めることがあるので、心配な場合は土に混ぜ込みます、植物の周りの土の上に置く。

※良い落ち葉堆肥はでき上がると、雨の日の森の中のようない香りがします！



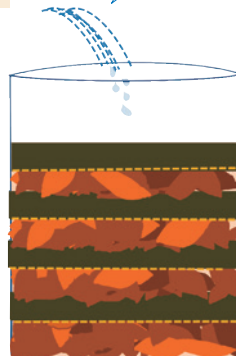
落ち葉堆肥づくりは、土中にある微生物の働きやすい条件が整うこと、つまり微生物の活性化がポイント。家庭で簡単にできる方法を、武蔵野市内で環境活動を40年行っている市民団体「クリーンむさしのを推進する会」代表の志賀和男さんにうかがいました。さあ！今秋から堆肥作りに挑戦してはいかが？

落葉の種類によって
完熟するまでの
時間が違います。

45ℓ位の大きな
厚めのポリ袋
穴が開かないように
2重にすればなお良い

湿らすために
最後に水を入れる

この繰り返し
(表土
米ぬか
落ち葉)



板の上に重石を置く

雨よけビニールシート
をかける

落ち葉と土の入った
ポリ袋

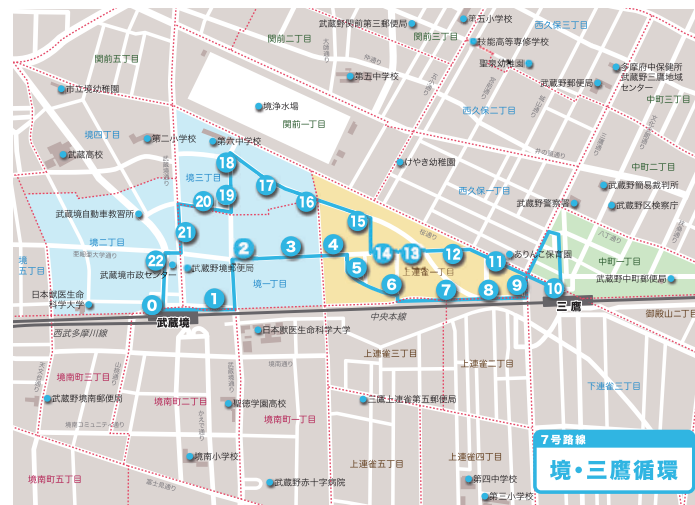
2カ月経過したら袋を開けて混ぜる。
その後20日に一度くらい混ぜて発酵を促す。

「クリーンむさしの」は市内数か所で落ち葉堆肥や生ごみ堆肥を作り、公園で花壇を作っている方々にも提供。ゴミになるものを活用するのは楽しく、はまりますよ！と志賀さん。本格的な落ち葉堆肥作りに挑戦したい方は「クリーンむさしのを推進する会」にご相談ください。活動にも参加できます。

クリーンむさしのを推進する会
連絡先 ☎0422-31-8570 志賀まで

7号路線 境・三鷹循環

ロータリーのサクラとそこからのケヤキ並木が見事な武蔵境駅。東に進んで三鷹駅から玉川上水や野鳥の森公園近くを通り、子どもに人気の境冒険遊び場公園から武蔵境駅に戻る、三鷹市と共同運行のコースです。



21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

武蔵境駅北口
五宿
武蔵境病院
本村公園南
堀合歩道
上連雀二丁目
地区公会堂
堀合地下道
堀合橋
三鷹駅北口
桜通り
堀合交差点東
堀合交差点西
遊歩道入口
堀合通り
本村公園北
六ツノノ前
境三丁目
境八分団前
境三丁目
独歩通り
武蔵境市政センター

子どもたちが思い切り遊べる公園の近くには市の天然記念物のケヤキの大木も



樹齢300年以上の高橋家のケヤキ

太宰治の写真で有名な
跨線橋からの眺めは
一見の価値あり



車窓から見える跨線橋

駅前ロータリーの
サクラとケヤキ並木で
秋を満喫

アジア大学通りの
ハナミズキは紅葉のあとの
赤い実が美しい！



アジア大学通りのハナミズキ



境冒険遊び場公園

ムーバスについての問い合わせ

武蔵野市 都市整備部 交通対策課
武蔵野市役所 本庁舎4階南棟
☎0422-60-1859



環境部各課の情報

●環境政策課 (☎0422-60-1841)

平成29年3月、むさしの自然観察園への温度差利用エネルギー設備が設置されました。この設備は、年間を通じて地下水の温度変化が小さい特性を生かし、気温との温度差を利用することで空調使用時の環境への負荷を減らし、省エネを行うものです。また、冷温水輻射式パネルヒーターを導入し、輻射熱を活用し、建物自体を暖める空調方法についても検証を行っています。いずれもむさしの自然観察園開館中は見学・体感できますので、ぜひご覧ください。

●ごみ総合対策課 (☎0422-60-1802)

「食品ロス」という言葉を知っていますか。まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことを指します。平成26年度の推計によれば、日本国内における食品ロスの量は約621万トン、これは国民1人1日当たりの量にすると茶碗約1杯分のご飯の量(約134g)に相当すると言われています。買いすぎに注意する、食品の期限管理を行う、無駄なく調理する、食べ残しをしないなど、各家庭でできることを実践して、食べ物の「もったいない」を減らしていきましょう。

●クリーンセンター (☎0422-54-1221)

12月10日(日)に「食」をテーマとした環境にやさしいライフスタイルを発信するイベント「オープンハーベスト」を開催します。クリーンセンターの屋上にある生ごみ堆肥を使った菜園の紹介やここで収穫された野菜を使った料理の提供などを予定しています。クリーンセンターの工場見学もできます。詳細は武蔵野クリーンセンターホームページ(<http://mues-ebara.com/>)をご覧ください。

●下水道課 (☎0422-60-1867)

近年、集中豪雨による浸水などの都市型水害が発生しています。このことから市では、浸水被害の軽減、水環境保全のため降った雨をゆっくり地中に浸透させる「雨水浸透ます」や、屋根に降った雨を溜めておき、庭の水やりや洗車、災害による断水時などに使うことができる「雨水貯留タンク」の設置を推進しています。新築、既設住宅ともに助成金制度がありますので是非ご利用ください。詳細については下水道課までお気軽にご相談ください。

配布場所紹介

「みちまちみどり」は、武蔵野市役所西棟2階 緑のまち推進課、図書館、公共施設のほか、ご協力いただける店舗等でも受け取ることができます。配布場所を順次ご紹介いたします。なお発行後一定期間が過ぎましたら、その後は緑のまち推進課での配布になります。



オンワード・リユースパーク
武蔵野市吉祥寺本町1-4-14
☎0422-23-0900
営業時間 11:00～20:00
<http://onward-reusepark.jp/>



多摩信用金庫 武蔵野支店
武蔵野市西久保1-6-27
☎0422-54-1211
開店時間 9:00～15:00



総合園芸店 船木園
武蔵野市境南町1-25-3
☎0422-32-1627
営業時間 9:30～日没

みちまちみどり VOL.29

2017年11月 第1刷発行
発行：武蔵野市
企画制作：一般社団法人 グリーンボード
編集：鈴木圭子／牧野桂子／森海馬／木川まど
小出行観／横山哲也
編集顧問：中村滋
デザイン：山田大介

問い合わせ

武蔵野市 環境部 緑のまち推進課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
☎0422-60-1863
メール：SEC-MIDORI@city.musashino.lg.jp

むさしのみどり・環境まちづくりを応援しています。
三井住友トラスト不動産株式会社 住友林業株式会社

緑のまち推進課の情報

◆菊花展

11月2日(木)より「第56回 菊花展」が開催されました。菊花展は武蔵野千秋会と市の共催事業です。

武蔵野千秋会会員及び菊愛好家の方々が自ら栽培した約200点の作品が出品されました。競技花、厚物・管物一般、福助の部など、見事に咲きそろった菊がむさしの市民公園にずらりと並び様子は圧巻でした。むさしの市民公園での展示終了後、11月9日(木)から、市役所ロビーにて優秀作品の展示を行いました。市役所に訪れた方に秋の風情をお楽しみいただけたと思います。



◆接道部緑化助成

住宅などの敷地で道路に面する部分(接道部)は、緑化することで景観の向上、環境保全機能、延焼の防止などの役目を果たします。

道路から目視できる生垣や樹木などの植栽に助成をしています。ブロック塀などを撤去して接道緑化する場合は、その撤去費用も対象となる場合があります。

[注意] 事前申請が必要です。図面等をお持ちいただき、ご相談ください。

<接道部緑化の助成金額一覧>

対 象	詳 細	上限単価	最高限度額
生 垣	高さ0.6m以上の樹木を四つ目垣、または同等のものと組み合わせて3m以上列植したもの。お互いの葉が触れ合う程度、もしくは1mあたり3本以上植栽してあるもの。	12,000円/m	60万円
高 木	植栽時の高さが3m以上で成木時の高さが5m以上に育つもの。	15,000円/本	
中 木	植栽時の高さが1.5m以上で成木時の高さが3m以上に育つもの。	4,000円/本	
低 木	高木、中木以外の樹木と竹類等。	2,000円/本	
地 被	芝・シダ・ツル・草本・コケ類植物等。	1,000円/㎡	30万円
ブロック撤去	新たに緑化する同位置のブロック塀等の撤去。(処分費、運搬費は対象外)	4,000円/㎡	

* 助成金は、施工費の範囲内です。